

平成27年度保健所管理栄養士政策能力向上シンポジウム開催要領

<p>目 的</p>	<p><背景> 平成25年に「健康日本21（第二次）」がスタートし、「地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善の基本指針」が示され、行政栄養士は健康づくり及び栄養・食生活施策の成果を得るため、地域の健康課題を総合的に分析し、健康課題の背景にある食習慣や食環境を明確にした上で、課題解決に向けた施策を構築することが求められているが、そのプロセスについては、更なる実践と検証が必要である。 このことから、当シンポジウムでは、平成25年度から地域の健康課題の総合的分析及び健康課題の背景にある食習慣や食環境を特定するプロセスに関する検討を行ってきた。 今年度は過去2年間の検討を踏まえ「施策化」に着目した検討を行うこととする。</p> <p><目的> ○ 実態把握を踏まえた健康づくり及び栄養・食生活改善施策の構築と評価枠組みを構築するプロセスについて考える。 ○ 成果を出す施策を構築・推進するために多職種、市町村、大学及び関係機関との連携の在り方を考える。</p>
<p>主 催</p>	<p>日本公衆衛生協会</p>
<p>開催期日</p>	<p>平成28年1月22日（金）10：30～16：00</p>
<p>会 場</p>	<p>アジュール竹芝（東京都港区海岸1-11-2）</p>
<p>対 象 者</p>	<p>都道府県・指定都市・中核市・政令市・特別区が設置する保健所及び本庁に勤務する管理栄養士等 150名（先着順） ※ 参加希望者は、事前に「地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善の基本指針」及び「平成26年地域保健総合推進事業 健康日本21（第二次）の推進における健康づくり及び栄養・食生活改善に関する効果的施策展開に関する研究 報告書」を一読すること。</p>
<p>参 加 費</p>	<p>無料</p>
<p>テ ー マ</p>	<p>「成果が見える栄養・食生活改善施策のために～ 明確にした実態を施策にどう繋げるか～」</p>
<p>内 容</p>	<p>1 開会 主催者挨拶：日本公衆衛生協会 理事長 篠崎 英夫 来賓挨拶：厚生労働省健康局健康課 課長 正林 督章氏</p> <p>2 基調講演 「把握した健康課題の背景にある食生活の特徴から 必要な施策及び評価枠組みを構築するプロセスについて」 新潟県立大学人間生活学部健康栄養学科 教授 村山 伸子 氏</p> <p>3 報告 「成果が見える栄養・食生活改善施策の取組状況全国調査報告」 他</p> <p>4 シンポジウム テーマ「成果が見える栄養・食生活改善施策のために ～ 明確にした実態を施策にどう繋げるか～」 座長：愛知県一宮保健所 所長 澁谷 いづみ 氏 助言者：新潟県立大学人間生活学部 健康栄養学科 教授 村山 伸子 氏 発表者：①「脳血管疾患対策に向けた食に関する要因分析から 『信州ACEプロジェクト』における事業展開までのプロセス」 長野県飯田保健福祉事務所 担当係長 酒井 登実代 ②「成人男性に対する効果的な肥満対策のための 要因分析から見えた新施策の提案について」 愛知県清須保健所 健康支援課長 小田 雅嗣 ③「脳血管疾患対策のための効果的減塩施策を展開するための 要因分析から施策の充実化に向けた取組について」 新潟県上越地域振興局健康福祉環境部 主査 磯部 澄枝</p>